

2023年10月19日

武蔵野美術大学 学長 殿

海外研修報告書

下記の通り、海外研修の報告をいたします。

記

氏名	小林昭世	印	所属	基礎デザイン学科
			職位	教授

研究課題	IASDR(International Association of Societies of Design Research, 国際デザイン学会連合研究会)出席
研究先機関	ミラノ工科大学他
主な滞在地 (国・都市名)	ミラノ
渡航日程	2023年10月3日 ~ 2023年10月13日 (11日間)
研究目的・理由	IASDR(International Association of Societies of Design Research, 国際デザイン学会連合研究会)出席、他
研究成果発表予定 (展覧会、著書、 論文発表等) 研究内容	今回の研修の第一の目的はIASDR 2023(International Association of Societies of Design Research, 国際デザイン学会連合研究会)に出席したことである。board meetingにて、挨拶し、日本のデザイン研究について報告し、短時間であったが議論することができた。

<p>大学授業における研究成果の還元</p>	<p>IASDR 2023 では、ヨーロッパ、アメリカ、東アジアからの若い研究者を中心に 500 名ほどが参加し、デザイン研究についての活発な議論が行われた。特に数人の発表ごとに、自分の研究を超えて、同じ研究分野の研究者同士で話し合う時間を設けたことは、今後の研究ビジョンを考える上で有効であった。</p> <p>デザイン研究の動向については、2023 年 12 月に中国広州美術学院にて開催される Design week の基調講演、および広州の白雲学院でのデザイン研究の動向についての招待講演の資料とする。</p> <p>また、ミラノのノベチェント美術館での未来派作品調査を行い、この調査は、現在進行中の共同研究、向井周太郎具体詩研究の基礎資料とする予定である。</p> <p>ローマおよびフィレンツェにおいて、ローマ時代からルネサンス期、現代に至る庭園資料（写真）を収集した。この資料は、2023 年 11 月中国、北京で開催される中国伝統色彩検討会 2023 にて「日本庭園における色彩：作庭記を通して」の招待論文の発表における庭園の比較資料の一部としての利用を検討している。</p> <p>上記研究成果は、学部のデザイン論をはじめとする講義、大学院生のゼミの研究資料として提供する予定である。</p>
------------------------	---

研究日程（全滞在期間）

出発日 (現地時間)	出発地 (国・都市名)	到着日 (現地時間)	到着地 (国・都市名)	研究内容等	滞在 日数
2023/10/3	羽田	10/4	イタリア・ローマ	庭園資料収集	3
		10/6	イタリア・フィレンツェ	庭園資料収集	3
		10/8	イタリア・ミラノ	IASDR 出席、イタリア未来派調査	5
10/12	イタリア・ミラノ	10/14	成田		
備考					

以上

※ 欄が不足する場合は、適宜、行を挿入するなどして記入してください。別紙添付も可。

※ その他特記事項等がある場合は、備考欄に記入してください。